

大和郡山 防災ニュース 2. 8月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

令和2年度限り

自主防災組織活動事業費補助金を活用してください！

市には、地域の自主防災活動を促進するため、年度に1回、必要な事業費の2分の1の補助金を交付する制度があり、例年多くの自主防災組織にご活用いただいています。



さて、今年度は、コロナウイルス感染予防対策でこの補助金制度を拡大拡充します。ぜひともこの機会に、地域の「共助」体制づくりに活用していただきますようご検討をお願いします。

補助金の補助率、限度額は？

今回の補助金は、地域にとって活用しやすいものとなっています。令和2年度限り補助金の内容は以下の通りです。

①補助率は、**100%!** (通常は、50%)

②補助金限度額は、



自治会規模

～99世帯	100,000円 (通常は、30,000円)
100～299世帯	200,000円 (通常は、40,000円)
300～ 世帯	300,000円 (通常は、50,000円)

なぜ、コロナウイルス感染防止で自主防災組織補助金なの？

コロナウイルスの感染拡大防止といえば、みなさんはマスクの着用や頻繁な手指洗浄、消毒などをお考えになるでしょう。また店舗のレジなどで飛沫拡散防止のビニールカバーなど思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれませんが、市でも避難所内における感染防止の対策として、室内用テントや非接触型体温計、空気清浄機やアルコール消毒液などを購入し、いざ災害時のための準備を行っています。

では、自主防災組織の感染予防対策とは何でしょうか？最近、国からは、避難とは「難を避ける」こと



で、自宅が安全なら在宅も避難とも言われています。また、地域によっては、市指定以外の、ミニ体育館や集会所、自治会館などを避難所として自主開設している自治会もお見受けします。要支援者は遠い距離を移動することが困難なので地域内で避難してもらうという避難計画もよくお聞きします。このように地域住民が、いざ災害時に分散して避難することは、コロナウイルス感染防止で市指定避難所が密な状態になることを避けるため自主防災組織が取り得る有効な手段の一つであるのです。

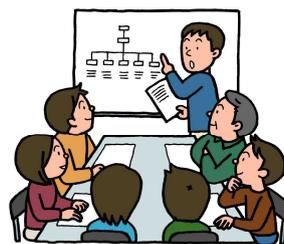
この補助金でどんなものを買えばいいのでしょうか

今回の補助金の対象購入品目は、地域の分散避難を実現するためであれば、基本的に例年とは変わりません。先月の防災ニュースでは市指定避難所外で避難する住民にも避難所内同様の支援、配給が受けられるとお話ししました。そして、その便益を受けるためには、当該避難所において名簿登録することが必要であり、自治会毎にまとめて登録を行えば、支援・配給をスムーズに行うことができます。様々な避難場所におられる自治会住民を取りまとめる本部機能を整備するために、備蓄倉庫や本部テント、発電機、投光器やその他防災機材備蓄品等を購入することが考えられます。



この機会に自主防災組織の登録や活性化を！

今回の補助金は、国からのコロナウイルス関係の交付金を活用した令和2年度限りのものです。市内にはまだ自主防災組織を登録されていないなかったり、登録はしているが活動をしていない自治会もございます。この機会に地域で防災についてお話し合いをいただき、この補助金の活用について、ご相談いただけませんか？また、従来の補助金では持ち出しが大きくて買えなかった倉庫や備品その他、地域で必要な物品を購入していただく機会として捉えていただけませんか？よろしくご検討をお願いします。



防災出前講座依頼も受付中！市民安全課までご相談ください

このニュースは、市民安全課、市内の各支所、矢田コミュニティ会館、南部公民館で配布しています。また、市のHPでもご覧になれます

[大和郡山防災ニュース](#) 🔍 検索

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ！』をご覧ください

[大和郡山市消防団へようこそ](#) 🔍 検索

発行人 市役所市民安全課